

「新しい生活様式」が提言され、世界的にもウィズ・コロナ、アフター・コロナでのライフスタイルやワークスタイルが話題となっている。これを「ニュー・ノーマル（新常態）」として語るものも出てきている。ニュー・ノーマルは過去にもあった。

初めてニュー・ノーマル（新常態）が語られたのは、本格的なネット社会が到来した2000年代初頭のことである。ネットの普及によって、従来の経済論理やビジネスの常識が通用しない時代になったとして、第一のニュー・ノーマルが使われ出した。

確かに私たちはそれまでとは異なるビジネスモデルや収益モデルを基盤とした事業やサービスにあつという間に取り囲まれるようになり、デジタル通信を電気や水道、ガスと同じような社会基盤として使い、生活し、仕事を行う世の中となった。

第二のニュー・ノーマルは、2008年から2009年に世界を席卷したリーマン・ショック後の経済や社会の在り方、価値観について語られるようになったことを言う。資本主義の論理、金融資本主義の構造的な反省をリーマン・ショックの大きな痛手の中で感じるようになり、企業活動の社会的責任が問われるようになった。最近よく言われるようになった「SDGs」は、その影響である。

そして、第三のニュー・ノーマルは、ウィズ・コロナ、アフター・コロナの世界に対してである。今回のニュー・ノーマルは、もともとビフォー・コロナ、コロナが広がる以前に言われていたことが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一気に加速されたものが多いように見える。

電子マネー化、無人店舗化、自動運転の開発は、3密回避＝人と人との接触を減らす社会生活の仕組みを予見していたかのようである。オンライン・ミーティング、リモートワークは、企業活動における3密の回避行動と連動している。これからは、電子押印、オンライン研修なども加速するかもしれない。2020年4月より導入された受動喫煙防止関連の法令・条例は、新型コロナで重症化する原因の一つが喫煙による肺の劣化であることから、図らずも社会的な禁煙化の動きと符合している。9月入学の問題もそうである。以前から議論はされてきていたが、今回のことで、一気に世の中に認知され、身近な問題となった。

言い古された話ではあるが、日本は「黒船」がやってこないと変わらないのである。今回は新型コロナという強烈な黒船がやってきた訳である。実は黒船はいつもそうなのであるが、黒船以前からその予兆や流れはあるのである。ペリー来航前の約100年の間に、既に日本には公式・非公式の開国要請を迫る各国からの来航や漂着が相次いでいた。先に挙げた数々のものが今回の黒船以前の予兆にあたる。そう考えると、全てが今回の新型コロナ危機への備えだったようにすら思えてくる。

学校や教員も変わらない日本の代表例の一つなのかもしれないが、以前よりはだいぶ変わるようになってきたように感じる。いや変わらざるを得ない状況に置かれてきている。もはや“普通”や“通常”がなくなっている。異常な状態が通常と化している。このような状況でも、冷静に見ていると、学校にとってプラスに働くこともあるはずである。第三のニュー・ノーマルに、学校も組み込まれることになると思うが、そのことがいい方向に向かうようにしていきたい。